

# マンガでわかる Devrel

オンラインファースト DevRel



前回までのあらすじ

デブレル  
DevRel とは

Developer Relations の略

自社の製品やサービスを使ってくれる開発者との関係性を良くするためのマーケティング施策のことだよ！



コロナ禍の影響で対面式のイベントが減っちゃったなあ

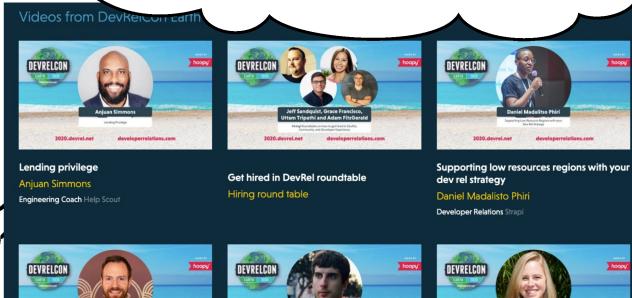
わかばちゃん

DevRelCon Tokyo2020も、残念ながら開催中止になっちゃいましたしね…

川下さん

でも  
そのかわり

オンラインで  
**DevRelCon Earth 2020**  
を開催しました!!



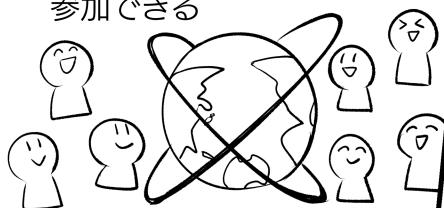
世界各国からスピーカーが登壇 & みんなで交流

オンライン化で  
よくなったこともある  
改善が必要なこともあるよね

たとえば  
参加者視点では…

## メリット

- 場所や時間にかかわらず世界中からイベントに参加できる



- 複数のイベントを行き来できる



## デメリット

- △ イベントへの参加感が薄くなる、集中しにくい



- △ オフラインのような偶然の交流が少なくなり新しい出会い、刺激が減る



そうですね

イベント運営者の  
視点だと

- 会場の確保や軽食・ドリンク準備が不要になった

DevRel  
中津川さん

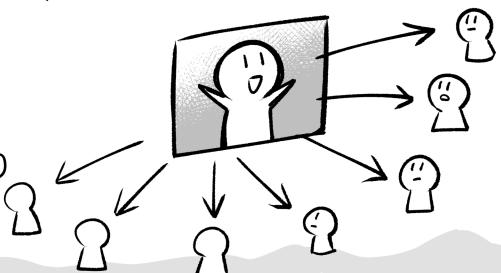
というの  
大きいですね！

でも…

最初はオンラインイベントの  
ノウハウが少なくて  
準備に時間がかかったり



一方通行な  
プレゼンになりがちで  
相互交流しづらかったり



参加の敷居が低くなつて  
当初は参加人数が  
増えましたが

定着率は  
よくないんですよね



そ、うなん  
だ!!…

イベント運営者には  
そんな悩みが  
あるんだ…

こういう問題点は  
どうやって改善  
しているの?

まずは、参加者の皆さんに  
快適な配信をお届けするために

**機材を買い揃えて  
インターネット回線を安定  
させました**

今使っているツール

スピーカー用



配信用



交流用



オヴィス

配信環境の整備により  
『DevRel/Asia 2020』のリアルタイム配信を  
成功させることができました！

日本、韓国、中国など  
アジア各国が参加！

スゴーイ

イベントへの参加感や  
偶然の出会い…

オ ヴ ィ ス  
これについては **oVice** という  
ツールで実現しました



バーチャル空間上の  
付近にいる人たちと  
自由に会話できる！

他にも  
新しく出てきたツールの中から  
DevRelの目的に  
合いそうなものを  
トライアルしています

最近では、簡単に人と繋がり  
会話ができるツールも  
出てきていますね

ク ラ ブ ハ ウ ス  
ClubHouseとか

常に新しい技術を  
吸収しながら  
オンラインイベントを  
ブラッシュアップ  
してるんだ

突然ですが  
わかばちゃん

この世に  
生き残る生物は

まさに  
**Developer**

どんな生き物だと  
思いますか？

この世に生き残る生物は

最も強いものではなく  
最も知性の高いもの  
でもなく…



ビ

最も変化に  
対応できるものである

この変化に適応し  
立ち止まらずに  
DevRelを続けていく

それが大事  
なんですね

そのとおり！

DevRelは  
技術・サービス・コンテンツを  
惜しみなく提供し  
ユーザーと一緒に進んでいく  
取り組みです



これができれば、コロナ禍を乗り越えて  
DevRelを続けて  
いけるはずです！

いっしょに  
頑張りましょう



DevRelをもっと知りたい方は  
こちらのWebサイトや  
コミュニティをチェックしてくださいね

Web ▶ <https://devrel.jp/>

コミュニティ ▶ <https://devrel.tokyo/>

## 2020年、進化したDevRel

コロナウィルスによって、わたしたちの生活は大きく変化しました。家族を亡くされた方、仕事を失った方、勉学に集中できなくなった方など、悲劇的な変化がとても多かったことでしょう。

DevRelは人と人のつながりを重視します。そのため、人と会うことや対話が重要でした。「握手はクリックよりも価値がある」というのは、DevRelConシリーズの生みの親であるMatthew Revell(Hoopy)の言葉です。まさにこの握手がコロナウィルスによって奪われてしまったのです。

しかしその反面、テクノロジ一分野では目を見張る進化がありました。ワクチンの開発に際し、AIを利用した分析が用いられました。オフィスに通えない、家族に会えない中でコミュニケーションを円滑にするツールが多種多様に生まれ出されました。この流れは今なお続いています。

DevRelは開発者をサポートし、鼓舞し、彼らに未来につながる製品を生み出してもらう仕事です。それはオンライン、オフラインどちらでも変わりません。開発者は逆境に屈せず、世界を変える製品を作り続けています。わたしたちもまた、彼らとともにいなければなりません。

## オンラインファースト

これまで行われていたミートアップ、カンファレンス、ハッカソンなどすべてがオンライン化しています。イベント設計においても、オンラインで行うのを前提に進められているでしょう。つまりオンラインファーストです。

このオンラインファーストは、すべてが手探りです。オンライン配信だけ見ても、様々な試行錯誤が必要です。2020年は、そうしたテストの時期だったとさえ言えます。大きなイベントで失敗しないよう、小さなトライアンドエラーを何度も行ってきました。こうしたテストは、多くの開発者にとって興味深い体験だったことでしょう。

オフラインからオンラインに移行し、失われたものは数多くあります。たとえばイベントの熱量は顔を合わせて行うのに比べると、低くなってしまっているかも知れません。イベントのために早起きしたり、移動したりする必要はなくなっています。そうした苦労もイベントの熱量を高めるのに必要だったでしょう。

しかしメリットも数多くあります。1つは小さな地域だけでなく、世界中から参加者が集まるようになったことです。自宅にいながらにして、世界中のイベントに一瞬で参加できます。さらにスピーカーとして見ると、世界中のカンファレンスへの登壇機会が生まれました。時差は辛いかも知れませんが、飛行機に乗って世界中を旅することなく、どのイベントにも登壇できます。さらに同じ日に複数のイベントで登壇することだって可能です。

### コロナ後を見据えたDevRelへ

2021年6月現在、世界各国でワクチン接種が行われています。まだパンデミックは続いているが、徐々に平静を取り戻しつつあると言えるでしょう。後1年もすれば、人に会って、安全に握手できる世界が戻ってくることはずです。そうした時、DevRelは以前と同じものになっているでしょうか。

オフィスの解約が相次ぎ、リモートワーク化が進んでいる現在、DevRelにおいてもリモートのメリットがすでに知られるようになっています。コロナウィルスが

落ち着いた際にも、このメリットを損なわずにDevRelを考えていく必要があります。つまりオンラインとオフラインの両方を活用したハイブリッド化です。

今後はオンラインとオフライン、両方を使いこなす企業のDevRelが伸びていくと予想されます。コロナ前の世界に戻れないのと同様に、コロナ後は新しいやり方が求められます。開発者が常に未来を作り続けているのと同様に、わたしたちも新しいDevRelに取り組まなければなりません。

顔を合わせて握手をするDevRel、オンラインで広くあまねくながっていくDevRel、その両方を活用しましょう。リアルが全てではないのと同じく、オンラインだけが全てという訳ではありません。それこそが新時代のDevRelになっていくはずです。